

小松杏里のくるめ演劇塾 2018 前期・講師紹介



小松杏里 [こまつ あんり◎久留米シティプラザ ドラマアーツ・ディレクター／ブラ座リーディング・演劇クラス担当]
東京都出身。76年、明治大学在学中に演劇舎螻蛄(とうろう)を結成、80年代小劇場ブームの中で人気を博す。92年、神奈川を拠点に演劇プロジェクト月光舎を組織、北九州演劇祭参加や大阪・名古屋・ソウル公演なども行い、2002年には韓国現代戯曲ドラマリーディングでチャン・ジン作『無駄骨』を演出、2005年には福岡でイ・マニ作『豚とオートバイ』のリーディング公演の演出を担当。以降、韓国の演劇界と交流を深める。2003年から3年間、福岡の声優タレント専門学校に講師として赴任、九州の演劇界と交流を持つ。2015年久留米シティプラザのドラマアーツ・ディレクターに就任、2016年より「くるめ演劇塾」が開講、塾長を務める。久留米市在住。



大塚ムネト [おおつか むねと◎ギンギラ太陽's 主宰／特別ゼミ担当]

1965年福岡県小郡市生まれ。ギンギラ太陽's 主宰。作・演出・かぶりモノ造型・出演の全てを手がける。作品は地元福岡を題材とし、擬人化されたビルや乗り物が「かぶりモノ」というスタイルで登場するのが特徴。西鉄ホール1ヶ月ロングラン公演や博多座、福岡シティ劇場(現・チャンネルシティ劇場)など活動の場をひろげ、「地元にこだわった地産地消の物語」を、そのまま地方公演と題して東京・渋谷のバルコ劇場公演ほか、全国ツアーを実施した。2005年第42回ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞受賞～NHK FMシアター『福岡天神モノ語り』、2007年福岡県文化賞・奨励部門受賞、2010年福岡市民文化活動功労賞を受賞、2017年には福岡文化連盟理事に就任。くるめ演劇塾2017前期の発表公演『CBバンドラ』では「久留米版ギンギラモノ語り」を一部発表、好評を博した。



荒木宏志 [あらか ひろし◎劇団ヒロシ軍主宰／特別ゼミ担当]

1987年長崎県諫早市生まれ。2007年、長崎県を拠点に主宰として劇団ヒロシ軍を旗揚げ。旗揚げ当初は役者と劇作を担当する。2013年より演出も担当し、旗揚げから10年間の公演回数は200本以上を超える。2017年、北九州芸術劇場で行われた「劇ツ×20分」で優勝。愛知県の長久手で行われた「劇王XI～アジア大会～」に、九州代表として出場。また、東京公演も行い、「佐藤佐吉賞 2017」の優秀主演男優賞にノミネートされる。久留米シティプラザには2016年のめくるめくエンゲキ祭に『ヘッドロリア』で参加、特別賞を受賞。現在は長崎県諫早市の独楽劇場を拠点として、地域の文化振興に貢献する演劇活動も行なっている。



永山智行 [ながやま ともゆき◎劇団こぶく劇場代表／特別ゼミ担当]

1967年宮崎県都城市生れ。劇作家、演出家。宮崎県内の三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こぶく劇場代表。2001年『so bad year』でAAF戯曲賞を受賞。同作をはじめ、戯曲は劇団外での上演も多く、2005年に東京国際芸術祭参加作品として書き下ろした『昏睡』は、2009年には神里雄大(岡崎芸術座)演出により上演された。また地点の演出家・三浦基との共同作業として、『お伽草紙／戯曲』『Kappa／或小説』なども執筆。2006年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場の演劇ディレクターを務め、九州で活躍する俳優たちを集めてのプロデュース公演「演劇・時空の旅シリーズ」を企画・演出するなど、地域における演劇の質の向上と広がりを願い活動している。2018年度は代表作『ただいま』で、北海道から沖縄までの全国10箇所ツアーを予定。



西山水木 [にしやま みすき◎女優／演出家／劇作家／特別ゼミ担当]

佐賀県基山町出身。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒業後、劇団青年座に入団。退団後は劇団を主宰するなど、舞台を中心に、作・演出・振付・出演と、その活動は多岐にわたり、海外公演でも高い評価を得ている。1988年と89年に初日通信大賞助演女優賞受賞、1998年第5回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。現在、女優としての活動と共に、桜美林大学非常勤講師、共立女子大学外部講師などを務め、後進の育成にも力を注いでいる。日本劇作家協会会員。NPO法人劇場創造ネットワーク理事。



泊 篤志 [とまり あつし◎飛ぶ劇場代表／特別ゼミ担当]

北九州市出身。劇作家・演出家。北九州大学在学中より演劇を始め、大学演劇部のOBたちにより1987年結成された「飛ぶ劇場」に参加。2年間の東京での社会人生活を経て、1993年劇団に復帰、95年より代表を務める。1998年『生態系カズくん』で第3回劇作家協会新人戯曲賞を受賞。この作品は、劇団結成30周年の昨年、久留米シティプラザのCボックスでも上演され、好評を博す。現在、日本劇作家協会九州支部の支部長を務めると共に、北九州芸術劇場のローカルディレクターとして九州演劇界の底上げに努めている。また、長崎をはじめ九州各地や札幌などでも、演出・戯曲講座やワークショップの講師として活動中である。